- 12. National Association of State Mental Health Program Directors (NASMHPD), National Technical Assistance Center for State Mental Health Planning (NTAC): Seclusion & restraint prevention tool: A core strategy a primary prevention tool. NASMHPD, NTAC, Alexandria VA, 2008. http://www.nasmhpd.org/general_files/public ations/ntac_pubs/NETI%20presentations/NE TI%2008%20Prevention%20Tools%20FINA L%203%206%2008.pdf. (Accessed December 25, 2012)
- 13. Champagne T. Sensory: Modulation and environment: Essential elements of occupations. Champagne Conferences & Consultation Southampton, MA, 2003.
- Champagne T, Stromberg N: Sensory approaches in inpatient settings: innovative alternatives to seclusion and restraint. J Psychosoc Nurs Ment Health Serv 42: 35-44, 2004.
- 15. Teitelbaum A, Volpo S, Paran R, et al: Multisensory environmental intervention (snoezelen) as a preventive alternative to seclusion and restraint in closed psychiatric wards. Harefuah 146: 11-4, 79-80, 2007.
- 16. The Executive Office for Administration and Finance: DMH New Worcester Recovery Center and Hospital. Commonwealth of Massachusetts, Boston, MA, 2012. http://www.mass.gov/anf/property-mgmt-and-construction/design-and-construction-of-publi c-bldgs/current-and-completed-projects/huma n-services-projects/dmh-new-worcester-recov ery-center-and-hospital.html. (Accessed December 25, 2012).
- Brigham and Women's Faulkner Hospital.
 Psychiatry at Brigham and Women's Faulkner Hospital; 2012.
 http://www.brighamandwomensfaulkner.org/p rograms_psych.html. Accessed December 25, 2012.
- 18. 山野真弓, 石塚裕大. 感覚調整室 (Sensory Modulation Room) リラックスルーム の実践-. e らぽーる 2011 年 6 月 24 日

- http://www.e-rapport.jp/team/action/sample/s ample13/01.html. (2012年12月25日アクセス)
- 19. 新田則之: 精神障害者の在宅支援ネット ワークの構築に関する企画研究. 平成 15 年度厚生科学研究費補助金(健康科学総合 研究事業)総合的な地域保健サービスに関 する企画立案及び事業管理に関する研究. 主任研究者松浦十四郎. 2003.

厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業) 研究分担報告書

統合失調症初回入院患者における 意思決定共有モデルの治療満足度への有効性 -無作為化比較試験-

研究分担者 奥村泰之 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 社会精神保健研究部 研究員

研究要旨

研究目的:治療早期からの関係性がアドヒアランス維持の方略として注目されている。本研究では、統合失調症の初回入院患者における意思決定共有モデルの治療満足度への有効性を検討する。

研究方法:

無作為化比較試験、オープン試験、中央登録による割り付けの隠匿化。

セッティング:1施設の精神科病院の急性期病棟。

調査対象: 入院時の診断が統合失調症、統合失調症での精神科入院が初回である患者。

介入法:通常診療に加えて入院中の1週間ごとに、①患者に治療に対する認識を聴取する質問票への回答を求め、②患者と医療スタッフの合同ミーティングを開催して、③患者と医療スタッフの情報共有のための治療計画書を作成することを繰り返す介入プログラム、あるいは通常診療のみ。

評価項目: 退院時の治療満足度、退院時の薬物療法に対する態度、退院1年後の治療脱落率。

結論: 意思決定共有モデルは、治療満足度の向上に寄与し、その結果として、治療アドヒアランスの向上や再入院率の低下に寄与することが期待できる。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

石井 美緒 横浜市立大学医学部大学院医学研究科 精神医学教室 博士課程

A. 研究目的

抗精神病薬の服薬アドヒアランスと臨床的予後との関連は多くの先行研究により明らかになっている ¹⁾が、抗精神病薬のアドヒアランスは身体科薬など他の薬と比べて不良である ²⁾とも言

われる。統合失調症の予後改善に向けて、服薬 アドヒアランスの維持・向上に向けての模索が 続いている。

近年、初回入院時の患者・治療者関係がその後の服薬アドヒアランスを予測する3、患者の治療満足度が高いと治療継続率が高い4など、統合失調症の治療において、治療早期からの取り組みとして、患者の視点を取り入れることへの関心が広まりつつある。さらに、治療上の意思決定

においても、患者の意向を重視する試みが始められつつある。意思決定共有モデル (Shared Decision Making) は、治療上の意思決定モデルの一つであり、Charles⁵⁾によると、従来型のパターナリスティックモデルとインフォームドコンセントとの中間に位置し、患者と治療者が治療に関する情報・意向を共有するものである。

国際的には、意思決定共有モデルの適用は、 統合失調症の治療ガイドラインに明記される 697)8)など、一定のコンセンサスが得られている。 その一方で、意思決定共有モデルの有効性に関 する先行研究は限られている⁹。2010年にコク ラン共同計画に報告された、Duncan ら 100の系 統的展望によると、精神科領域における意思決 定共有モデルに関する無作為化比較試験は Hamann¹¹⁾と Loh¹²⁾の 2 つに限られていた。 Hamann¹¹⁾は統合失調症入院患者を対象に、意思 決定共有モデルに基づく心理教育プログラムを 施行したところ、患者の治療参画への意向が増 すという結果を得ている。また、Loh12)はうつ病 の入院治療において、医師・患者双方に対する 意思決定共有モデルトレーニングを行うことに より患者の治療満足度が高まることを示してい る。

これまでの研究は、治療早期の患者層に着目 していないため、過去の治療経験等の影響を除 外できないことなどの限界が残されている。そ こで、本研究では、統合失調症初回入院患者に おける、意思決定共有モデルの治療満足度への 有効性を検討することを目的とする。

B. 研究方法

研究法は、無作為化比較試験とする。無作為 化は中央登録、最小化法により実施する。症例 登録期間は、2013年5月から2014年5月とす る。本研究は、静岡県沼津市にある、沼津中央 病院の精神科救急入院料病棟で実施する。倫理 審査は、横浜市立大学にて承認を得る。また、 臨床試験登録は Clinical Trials.gov にて行う。

適格基準は、(1) 精神科救急病棟に入院、(2) 入院時診断が統合失調症圏 (ICD-10 の F20-F29)、(3) 精神科への入院歴は初回、(4) 中等度以上の精神遅滞、器質性・症状性精神障害の併存がない、(5) 16~65 歳の患者とする。また、(6) PANSSの「概念の統合失調」の項目が4点以下、(7) 患者本人の書面同意を得られる者という2つの条件は、現在検討中の適格基準である。

症例登録から評価までの流れ図を図1に示す。 入院後1週間以内に調査対象者の症例登録を行 う。介入群では入院中、通常の診療に加え、週1 回の介入プログラムを施行する。入院時にベー スライン評価、退院時に介入後評価を行う。

介入プログラムは、意思決定共有モデルの基本的な部分である、治療者と患者の情報と意向の共有に焦点を当てたものであり、(1) 患者意見調査アンケート、(2) 患者・スタッフ合同ミーティング、(3) 治療計画書の作成、という3つの要素から構成される。介入プログラムは、毎週1回、入院中に4回以上実施する(図2)。

主要評価項目は、患者の治療満足度であり、 退院前 1 週間以内に日本語版 Client Satisfaction Questionnaire により評価する。副 次評価項目として、退院時の薬物療法への態度 を日本語版 Drug Attitude Inventory、退院時の 症状回復の程度を日本語版 Positive and Negative Syndrome Scale、退院時の機能回復の 程度を日本語版 Global Assessment of Functioning scale、1 年後の治療脱落率を測定す る。

例数設計は、治療満足度を従属変数、割り付け群を独立変数とし、期待される群間の標準化

平均値差 0.60、有意水準 5%、検定力 80%、 両側検定、脱落率 10%の精度で独立な 2 群の t 検定を行うときに、100 例必要であると推定さ れた。ここで、期待される群間の標準化平均値 差は、先行研究 ¹²⁾を参考に設定した。統計解析 は、共変量を調整するため、線形混合モデルを 用いる。

C. 考察

統合失調症治療において、意思決定共有モデルに基づく介入プログラムにより、患者の治療満足度、治療参加への意向が高まり、アドヒアランスの向上が期待されることが、本研究の臨床的意義である。特に、初回入院という治療早期の介入であるため、再入院率等の予後の改善につながる可能性も期待される。本研究の限界としては、以下の点が挙げられる。第1に、本研究の主要評価項目は、退院時の主観的評価項目であり、長期的な治療の効果を客観的評価項目により測定していない。第2に、他施設へ一般化可能性は検討できない。最後に、調査参加者と治療者とを二重盲検することはできない。

D. 健康危険情報

なし

E. 研究発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況 なし

引用文献

- ¹⁾ Fenton, Wayne S: Determinants of medication compliance in schizophrenia: Empirical and clinical findings. Schizophrenia Bulletin, Vol 23(4), 637-651,1997
- ²⁾ Cramer JA, Rosenheck R: Compliance with medication regimens for mental and physical disorders. Psychiatr Serv. 49(2):196-201, 1998
- L. de Haan, T. van Amelsvoort et al.: Risk Factors

- for Medication Non-Adherence in Patients with First Episode Schizophrenia and Related Disorders; A Prospective Five Year Follow-Up: Pharmacopsychiatry 40: 264 268, 2007
- Rosemarie McCabe, Marya Saidi, Stefan
 Priebe:Patient-reported Outcomes in Schizophrenia.
 British Journal of P sychiatry, 191, 21-28,2007
- Cathy Charles, Amiram Gafni, Tim Whelan: Shared Decision-Making in the Medical Encounter: What Does It Mean? (Or It Takes At Least Two To Tango) Soc. Sci. Med. Vol. 44, No. 5, pp. 681-692, 1997
- ⁶⁾ Lehman AF, Lieberman JA, Dixon LB, et al:Practice guideline for the treatment of patients with schizophrenia, second edition. Am J Psychiatry 2004;161:1-56
- 7) National Institute for Clinical Excellence:Guidance on the Use of Newer (atypical) Antipsychotic Drugs for the Treatment of Schizophrenia.
- 8) Steinkopff-Verlag:DGPPN.S3Behandlungsleitlinie Schizophrenie.Darmstadt,Germany, 2005
- ⁹⁾ Robert E. Drake, Delia Cimpean, William C. Torrey: Shared Decision Making in Mental Health: Prospects for Personalized Medicine. Dialogues in Clinical Neuroscience - Vol 11. No. 4. 2009
- Edward Duncan, Catherine Best, Suzanne Hagen: Shared decision making interventions for people with mental health conditions. The Cochrane Library Issue 1, 2010
- Johannes Hamann: Shared Decision Making for In-Patients with Schizophrenia. Acta Psychiatrica Scandinavica, 114:265-273, 2006
- ¹²⁾ Andreas Loh et al:The effects of a shared decision-making intervention in primary care of depression: A cluster-randomized controlled trial. Patient Education and Counseling 67,324-332,2007

図1 研究の全体的な流れ

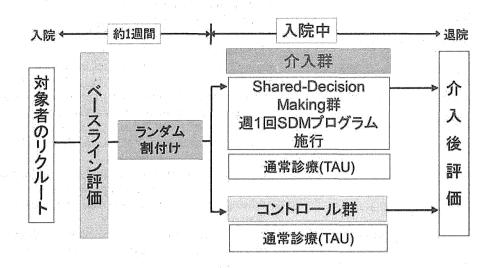
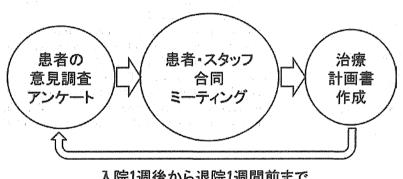


図2介入プログラムの流れ

Shared-Decision Making Program



入院1週後から退院1週間前まで、 週1回くりかえす

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

書 籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Ito H	Mental health policy and services. Where we stand.	Sandra J. Lawman	Mental Health Care In Japan	Routledge	イキ*リス	2012	36-56

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ito H, Okumura Y, Higuchi T, Tan CH, Shinfuku N	International variation in antipsychotic prescribing for schizophrenia: Pooled results from the research on East Asia psychotropic prescription	Open Journal of Psychiatry	2	340-346	2012
Hatta K, Otachi T, Sudo Y, Kuga H, Takebayashi H, Hayashi H, Ishii R, Kasuya M, Hayakawa T, Morikawa F, Hata K, Nakamura M, Usui C, Nakamura H, Hirata T, SawaY	(reap) studies. A comparison between augmentation with olanzapine and increased risperidone dose in acute schizophrenia patients showing early non-response to risperidone.	Psychiatry Research	198	194-201	2012
Noda T, Sugiyama N, Ito H, Soininen P, Putkonen H, Sailas E, Joffe G	Secluded/restrained patients' perception of their treatment: validity and reliability of a questionnaire.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	66	397-404	2012
Noda T, Nijman H, Sugiyama N, Tsujiwaki K, Putkonen H, Sailas E, Kontio R, Ito H, Joffe G	Factors Affecting Assessment of Severity of Aggressive Incidents: Using the Staff Observation Aggression Scale-Revised (SOAS-R) in Japan.	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing	19	770-775	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
泉田信行 野田寿恵 杉山直也 平田豊明 伊藤弘人	隔離室入室期間の人的資源 投入量の検討. コストおよび 行動制限最小化の視点から.	精神医学	54	801-809	2012
野田寿恵 安齋達彦 杉山直也 平田豊明 伊藤弘人	精神保健福祉資料 (630 調査) を用いた隔離・身体拘束 施行者数の分析.	精神医学	51	317-323	2012



201224076A (31/191-)

(厚生労働科学研究費補助金 研究報告書 別冊) 厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業 (精神障害分野) 精神科救急医療における適切な治療法とその有効性等の評価に関する研究 (H23-精神・一般・008) 平成 24 年度総括・分担研究報告書 研究代表者 伊藤 弘人

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

書 籍

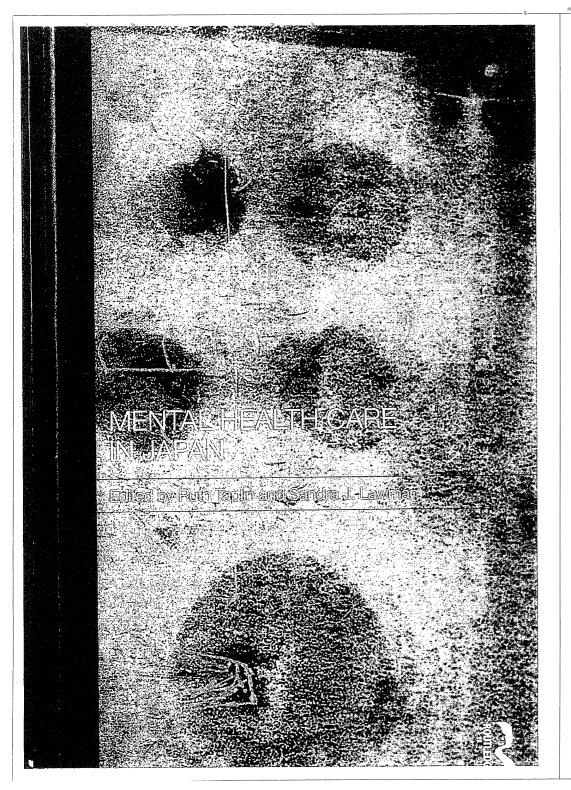
著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
		編集者名					
Ito H	Mental health policy and services. Where we stand.	Sandra J. Lawman	Mental Health Care In Japan	Routledge	イキ [*] リス	2012	36-56

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ito H, Okumura Y, Higuchi T, Tan CH, Shinfuku N	International variation in antipsychotic prescribing for schizophrenia: Pooled results from the research on East Asia psychotropic prescription (reap) studies.	Open Journal of Psychiatry	2	340-346	2012
Hatta K, Otachi T, Sudo Y, Kuga H, Takebayashi H, Hayashi H, Ishii R, Kasuya M, Hayakawa T, Morikawa F, Hata K, Nakamura M, Usui C, Nakamura H, Hirata T, SawaY	A comparison between augmentation with olanzapine and increased risperidone dose in acute schizophrenia patients showing early non-response to risperidone.	Psychiatry Research	198	194-201	2012
Noda T, Sugiyama N, Ito H, Soininen P, Putkonen H, Sailas E, Joffe G	Secluded/restrained patients' perception of their treatment: validity and reliability of a questionnaire.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	66	397-404	2012

(厚生労働科学研究費補助金 研究報告書 別冊) 厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業 (精神障害分野) 精神科救急医療における適切な治療法とその有効性等の評価に関する研究 (H23・精神・一般・008) 平成 24 年度総括・分担研究報告書 研究代表者 伊藤 弘人

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Noda T, Nijman H, Sugiyama N, Tsujiwaki K, Putkonen H, Sailas E, Kontio R, Ito H, Joffe G	Factors Affecting Assessment of Severity of Aggressive Incidents: Using the Staff Observation Aggression Scale-Revised (SOAS-R) in Japan.	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing	19	770-775	2012
泉田信行 野田寿恵 杉山直也 平田豊明 伊藤弘人	隔離室入室期間の人的資源 投入量の検討.コストおよび 行動制限最小化の視点から.	精神医学	54	801-809	2012
野田寿恵 安齋達彦 杉山直也 平田豊明 伊藤弘人	精神保健福祉資料 (630 調査) を用いた隔離・身体拘束 施行者数の分析.	精神医学	51	317-323	2012



Mental Health Care in Japan

Mental health, including widespread depression, a high suicide rate and institutionalisation, is a major problem in Japan. At the same time, the mental health care system in Japan has historically been more restrictive than elsewhere in the world. This book looks at the challenges of mental health care in Japan, including problems such as the institutionalisation of long-term patients in mental hospitals. The book discusses the latest legislation to deal with mental health care, and explores the various ideas and practices concerning rehabilitation into the workforce, the community and service user groups that empower the mentally ill. It goes on to look at the social stigma attached to the mentally ill in Japan and Britain, which touches upon the issue of counselling those with post traumatic stress after the recent earthquake.

Ruth Taplin is Director of the Centre for Japanese and East Asian Studies, London, and is Editor of the *Interdisciplinary Journal of Economics and Business Law* (www.ijebl.co.uk).

Sandra J. Lawman is an Associate for the Shaftesbury Partnership.

- A Japanese Company in Crisis Ideology, Strategy, and Narrative Fiona Graham
- 2 Japan's Foreign Aid
 Old Continuities and New
 Directions
 Edited by David Arase
- 3 Japanese Apologies for World War II A Rhetorical Study Jane W. Yamazaki
- 4 Linguistic Stereotyping and Minority Groups in Japan Nanette Gottlieb
- 5 Shinkansen From Bullet Train to Symbol of Modern Japan Christopher P. Hood
- 6 Small Firms and Innovation
 Policy in Japan
 Edited by Cornelia Storz
- 7 Cities, Autonomy and Decentralization in Japan Edited by Carola Hein and Philippe Pelletier
- 8 The Changing Japanese Family Edited by Marcus Rebick and Ayumi Takenaka

- 9 Adoption in Japan Comparing Policies for Children in Need Peter Hayes and Toshie Habu
- 10 The Ethics of Aesthetics in Japanese Cinema and Literature Polygraphic Desire Nina Cornyetz
- 11 : Institutional and Technological Change in Japan's Economy Past and Present Edited by Janet Hunter and Cornelia Storz
- 12 **Political Reform in Japan**Leadership Looming Large
 Alisa Gaunder
- 13 Civil Society and the Internet in Japan
 Isa Ducke
- 14 Japan's Contested War Memories The 'Memory Rifts' in Historical Consciousness of World War II Philip A. Seaton
- 15 Japanese Love Hotels A Cultural History Sarah Chaplin
- Population Decline and Ageing in Japan
 The Social Consequences
 Florian Coulmas

- 17 Zainichi Korean Identity and Ethnicity David Chapman
- 18 A Japanese Joint Venture in the Pacific
 Foreign Bodies in Tinned Tuna
 Kate Barclay
- 19 Japanese-Russian Relations, 1907–2007 Joseph P. Ferguson
- 20 War Memory, Nationalism and Education in Post-War Japan, 1945–2007 The Japanese History Textbook Controversy and Ienaga Saburo's Court Challenges Yoshiko Nozaki
- 21 A New Japan for the Twenty-First Century
 An Inside Overview of Current Fundamental Changes and Problems
 Edited by Rien T. Segers
- 22 A Life Adrift
 Soeda Azembo, Popular Song and
 Modern Mass Culture in Japan
 Translated by Michael Lewis
- 23 The Novels of Oe Kenzaburo Yasuko Claremont
- 24 Perversion in Modern Japan
 Psychoanalysis, Literature,
 Culture
 Edited by Nina Cornyetz and
 J. Keith Vincent
- 25 Homosexuality and Manliness in Postwar Japan Jonathan D. Mackintosh
- 26 Marriage in Contemporary Japan Yoko Tokuhiro

- 27 Japanese Aid and the Construction of Global Development
 Inescapable Solutions
 Edited by David Leheny and
 Carol Warren
- 28 The Rise of Japanese NGOs Activism from Above Kim D. Reimann
- 29 Postwar History Education in Japan and the Germanys Guilty Lessons Julian Dierkes
- 30 Japan-Bashing Anti-Japanism since the 1980s Narelle Morris
- 31 Legacies of the Asia-Pacific
 War
 The Yakeato Generation
 Edited by Roman Rosenbaum and
 Yasuko Claremont
- 32 Challenges of Human Resource Management in Japan Edited by Ralf Bebenroth and Toshihiro Kanai
- 33 Translation in Modern Japan Edited by Indra Levy
- 34 Language Life in Japan
 Transformations and Prospects
 Edited by Patrick Heinrich and
 Christian Galan
- 35 The Quest for Japan's New Constitution An Analysis of Visions and Constitutional Reform Proposals 1980–2009 Christian G. Winkler
- 36 Japan in the Age of Globalization Edited by Carin Holroyd and Ken Coates

37 Social Networks and Japanese Democracy

The Beneficial Impact of Interpersonal Communication in East Asia Ken'ichi Ikeda and Sean Richey

- 38 Dealing with Disaster in Japan Responses to the Flight JL123 Crash Christopher P. Hood
- 39 The Ethics of Japan's Global
 Environmental Policy
 The Conflict between Principles and
 Practice
 Midori Kagawa-Fox
- 40 Superhuman Japan
 Knowledge, Nation and Culture in
 US-Japan Relations
 Marie Thorsten

- 41 Nationalism, Realism and Democracy in Japan The Thought of Masao Maruyama Fumiko Sasaki
- 42 Japan's Local Newspapers Chihōshi and Revitalization Journalism Anthony S. Rausch
- 43 Mental Health Care in Japan Edited by Ruth Taplin and Sandra J. Lawman

Mental Health Care in Japan

Edited by Ruth Taplin and Sandra J. Lawman



First published 2012 by Routledge 2 Park Square, Milton Park, Abingdon, Oxon OX14 4RN

Simultaneously published in the USA and Canada by Routledge

711 Third Avenue, New York, NY 10017

Routledge is an imprint of the Taylor & Francis Group, an informa business

© 2012 selection and editorial material, Ruth Taplin and Sandra J. Lawman; individual chapters, the contributors

The right of Ruth Taplin and Sandra J. Lawman to be identified as the authors of the editorial material, and of the authors for their individual chapters, has been asserted in accordance with sections 77 and 78 of the Copyright, Designs and Patents Act 1988.

All rights reserved. No part of this book may be reprinted or reproduced or utilised in any form or by any electronic, mechanical, or other means, now known or hereafter invented, including photocopying and recording, or in any information storage or retrieval system, without permission in writing from the publishers.

Trademark notice: Product or corporate names may be trademarks or registered trademarks, and are used only for identification and explanation without intent to infringe.

British Library Cataloguing in Publication Data

A catalogue record for this book is available from the British Library

Library of Congress Cataloging in Publication Data

Mental health care in Japan / edited by Ruth Taplin and Sandra J. Lawman.

p.; cm. - (Routledge contemporary Japan series; 43)
Includes bibliographical references and index.

I. Taplin, Ruth. II. Lawman, Sandra J. III. Series: Routledge contemporary Japan series; 43.

[DNLM; 1. Mental Health Services-Japan. 2. Mental Disorders-

ethnology-Japan. WM 30 JJ3] LCclassification not assigned 362.20952—dc23

2012008337

ISBN: 978-0-415-69068-3 (hbk) ISBN: 978-0-203-09834-9 (ebk)

Typeset in Times New Roman by Swales & Willis Ltd, Exeter, Devon



Printed and bound in Great Britain by the MPG Books Group

Contents

	List of illustrations Notes on contributors Foreword by Graham Thornicroft Acknowledgements List of abbreviations	ix X XV XVi XX
1	Mental health care in Japan: an introduction RUTH TAPLIN	1
2	Mental health policy and services: where we stand	36
3	Reintegrating the mentally ill into society and work SATORU HASHIMOTO	57
4	How mental hospitals treat their patients, and programmes for rehabilitation into the community YAYOI IMAMURA	73
5	National Federation of Families for the Mentally III in Japan: historical and future perspectives HAJIME OKETANI AND HIROMI AKIYAMA	83
6	An overview of the user movement in Britain and Japan Sandra J. Lawman	98
7	Attitudes to mental illness in Japan and Britain shuntaro ando and graham thornicroft	113
	Postscript: a personal perspective SANDRA J. LAWMAN	142
	Index	143

Illustrations

Figu	ires	
2.1	Number of patients	3
2.2	Number of inpatients by age group	4
2.3	Mental health services in Japan	4
2.4	Direction for optimal services	5
3.1	The scheme of job support for people with disabilities	6
4.1	Prescription pattern of antipsychotics drugs for schizophrenic	
	inpatients in Japan	7
4.2	Transition of mental health rehabilitation in Japan	7
4.3	Map of Urakawa	8
4.4	Psychosocial model of Urakawa	8
5.1	Number of beds in psychiatric hospitals: international comparison	8
5.2a	Antipsychotic drug dosage for patients with schizophrenia:	
	international comparison	8
5.2b	Amount of antipsychotic drug dosage for inpatients with	
	schizophrenia; international comparison	8
Tabl	es	
1.1	Problematic experiences of the family	1
1.2	Whether the families have been asked about difficulties they face	1
1.3	Working together to provide support	1
1.4	Support by visit	1
1.5	Results of hospital discharge support services	1
1.6	Positive attitudes of the public towards mental health	2
1.7	Negative attitudes of the public towards mental health	2
1.8	Discrimination experienced by sufferers	2
1.9	Experiences of restricting own behaviour	2
2.1	Psychiatric beds in Asia	4
2.2	Changes to the law on protection of human rights of persons	
	with mental illness	4
3.1	System of self-sufficiency benefits etc. for welfare service	6

x Illustrations

3.2	The number of welfare service business operators for persons	
	with disabilities	64
3.3	The estimated number of workers with mental disorders by degree	
	of disorders.	6:
3.4	The estimated number of workers with mental disorders by age	
	group	6
3.5	The number of new applications for employment for people	
	with disabilities through public employment security offices	6
3.6	The number of people with disabilities who obtain jobs through	
	public employment security offices	6

Contributors

Hiromi Akiyama has been the public relations coordinator for the Community Mental Health and Welfare Bonding Organization (COMHBO) since 2008. She was a project manager and research assistant at the Department of Psychiatry, Center for Mental Health Policy and Services Research, University of Pennsylvania, from 2004–8. Akiyama has been an independent intercultural communication consultant – and an independent translator/interpreter – since 2008. She has published 'A letter from Philadelphia', Doosoo Tsuushin 17, Shikoo-kai. Tokyo: Japan (1992).

Shuntaro Ando is currently at the Graduate School of Medicine, the University of Tokyo. He holds a PhD in Medicine (2009–10) from the London School of Hygiene and Tropical Medicine and an MSc in Public Health (Health Services Research stream). In 2011 Ando was a researcher in the Department of Psychiatry and Behavioral Science, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science. While a part-time doctor at the University of Tokyo Hospital, Ando was responsible for the treatment of inpatients who suffered from general psychiatric diseases such as schizophrenia, depression, neurosis and personality disorders. His latest publications include: Ando, S. and Kawakami, N. 'World Mental Health Japan Survey Group: utility of self-reported sleep disturbances as a marker for major depressive disorder (MDD): findings from the World Mental Health Japan Survey 2002–2006', Psychiatry Research (in press); Ando, S., Clement, S., Barley, E.A. and Thornicroft, G. 'The simulation of hallucinations to reduce the stigma of schizophrenia: a systematic review', Schizophrenia Research (in press).

Satoru Hashimoto is Associate Professor of Kansai University Faculty of Law. He specialises in the theory of the structure of the firm and non-profit organisations, and teaches 'theory of industrial systems', 'theory of the corporate system' and related subjects at his university. His recent interest is in change in corporate structure within the context of change occurring in the welfare state and he is currently engaged in theoretical and substantive research in this area. Recent research has also focused on third-sector organisations and social enterprise. Commissioned by the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan, he is now conducting research on disabled people within the Japanese

xii Contributors

firm, which will result in policy recommendations for the disabled, both physically and mentally, and their incorporation into the world of work.

Yayoi Imamura (MD) graduated from Sapporo Medical University in April 2002. She has since worked in a number of neuropsychiatry divisions in different hospitals in Japan, with the most recent being a post from April 2010 until present in the Division of Social Reintegration Support Services, Department of Psychiatry, Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital, which is currently regarded as the best and most modern in Japan. She lectures at various venues including Sapporo Medical University, and is a regular speaker at study meetings and seminars related to alternative approaches towards mental illness. Some of her interviews are available over the Internet. She is currently writing a book on an advanced method that could be applied to people with mental illness. Her major publications include the following co-authored articles: 'Possibility of regional mental treatment – perspective from Tohoku and Hokkaido regions', Psychiatria et neurologia Japonica 108: 957 (2006); 'Attempted suicide at an emergency centre', Psychiatria et neurologia Japonica 105: 804 (2003).

Hiroto Ito was appointed by the government of Japan in December 2011 as one of the members to prepare to include mental illness as one of the five major diseases in Japan (along with acute myocardial infarction, cancer, diabetes and stroke). He is also starting a nationwide collaborative project on screening and treatment of co-morbidities of persons with mental disorders and physical illness. From 2006 to present he is also Director, Department of Social Psychiatry at the National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, Tokyo, Japan. His recent publications include: Ito, H., Setoya, Y. and Suzuki, Y. 'Lessons learned in developing community mental health care in East and South East Asia', World Psychiatry (in press); Miyamoto, Y., Tachimori, H. and Ito, H. 'Formal caregiver burden in dementia: impact of behavioral and psychological symptoms of dementia and activities of daily living', Geriatric Nursing (in press); Kobayashi, M., Ito, H., Okumura, Y., Mayahara, K., Matsumoto, Y. and Hirakawa, J. 'Hospital readmission in firsttime admitted patients with schizophrenia: smoking patients had higher hospital readmission rate than non-smoking patients', International Journal of Psychiatry in Medicine 40: 247-57 (2010).

Saudra J. Lawman is a health consultant for the Shaftesbury Partnership, currently a member of Rethink London Committee and National Audit Committee, and Vice Chair of CASA Housing Support; she is a former Lambeth local councillor and Chair of Social Services, a former Board Member of Mosaic Clubhouse and former Secretary to the Trustees of the South London and Maudsley Mental Health NHS Foundation Trust Charitable Funds.

Hajime Oketani is Director-General and a board member of COMHBO since 2007. He has been working for mentally disabled people and their families with the most influential association representing their interests at this time in Japan, namely the National Federation of Families for the Mentally Ill in Japan. After

Contributors xiii

working with that organization since 1984, being the Director-General (2000–3), he has been regularly issuing articles and editing journals in relevant areas. He was an active editor of the monthly journals Zenkaren (1986–2004) and Review on Local Community Mental Health and Welfare (1991–2004); and published two books as editor Mentally III – 100's Experiences (Chuohoki Publishing, 1993) and Mentally III – Experience of the Family (Chuohoki Publishing, 1995). He was a member of the editorial board of the Japanese Federation of Mental Health and Welfare (2000–3) and is now working on the White Paper on Mental Health and Welfare (2004–present). Major committees he has been involved with include one relating to schizophrenia, organised by, for example, the Japanese Society of Psychiatry and Neurology and study and steering committees on vocational ability for disabled people (Ministry of Health, Labour and Welfare, 2003–5).

Ruth Taplin is Director of the Centre for Japanese and East Asian Studies, which won Exporter of the Year in Partnership in Trading/Pathfinder for the UK in the year 2000. She received her doctorate from the London School of Economics and is the author/editor of 15 books and over 200 articles. She wrote freelance for The Times newspaper for nine years on Japan, Taiwan and Korea. Taplin studied Japanese at Durham University over 20 years ago as part of a special course for future leaders in the Japanese field in the UK. Her most recent books include: Decision-making and Japan: A Study of Japanese Decision-making and its Relevance to Western Companies (reprinted by Routledge in 2003, first published by The Japan Library in 1995); Exploiting Patent Rights and a New Climate for Innovation in Japan (Intellectual Property Institute, 2003); Valuing Intellectual Property in Japan, Britain and the United States (Routledge, 2004): Risk Management and Innovation in Japan Britain and the United States and (with Masako Wakui) Japanese Telecommunications Market and Policy in Transition (both published by Routledge, 2005); Innovation and Business Partnering in Japan, Britain and the United States (Routledge, 2006); Outsourcing and Human Resource Management: An International Survey (Routledge, 2008); Intellectual Property and the New Global Japanese Economy (Routledge, 2009); and (co-edited with Alojzy Z. Nowak) Intellectual Property, Innovation and Management in Emerging Economies (Routledge, 2010). Professor Taplin is a featured author of Routledge. She is editor of the Interdisciplinary Journal of Economics and Business Law (www.ijebl.co.uk).

Graham Thornicroft is Professor of Community Psychiatry, Institute of Psychiatry, King's College London; Head, Health Service and Population Research Department, Institute of Psychiatry; Consultant Psychiatrist, South London and Maudsley NHS Foundation Trust; and Director, Health and Policy and Evaluation Institute, King's Health Partners. Professor Thornicroft has authored and edited 23 books and over 230 peer-reviewed papers in Pubmed. Some recent papers include: Howard, L., de Salis, I., Tomlin, Z., Thornicroft, G. and Donovan, J. 'Why is recruitment to trials difficult? An investigation into recruitment difficulties in an RCT of supported employment in patients with

xiv Contributors

severe mental illness', Contemporary Clinical Trials 30(1): 40–6 (January 2009); Thornicroft, G., Brohan, E., Rose, D., Sartorius, N. and Leese, M. 'Global pattern of experienced and anticipated discrimination against people with schizophrenia: a cross-sectional survey', Lancet 20(373): 408–15 (January 2009); Tansella, M. and Thornicroft, G. 'Implementation science: understanding the translation of evidence into practice', British Journal of Psychiatry 195(4): 283–5 (October 2009).

Mental health policy and services

Where we stand

Hiroto Ito

Introduction

A fundamental challenge in mental health policy is to establish a system that provides better mental health care. To accomplish this goal, it is necessary to improve access to mental health care and to provide quality services, while at the same time controlling costs. It is difficult, however, to establish a system that maintains a balance between access, costs and quality care. In addition, there are increasing calls for community care, rather than inpatient care, for persons with mental illness.

To date, Japan has developed many initiatives to address these issues. In 1961, when Japan was entering an era of high economic growth, the government implemented a universal health insurance system that provides free access to health care by allowing people to use health insurance at any medical facility. The number of psychiatric hospital beds was concurrently increased so that persons with mental illness, who had not otherwise had access to psychiatric care, could receive appropriate treatment.

As 50 years have now passed since the universal health care system was introduced, certain institutional problems have begun to emerge. Although the need for a transition from inpatient care to community care was identified in the 1960s, no notable changes have been made, at least as far as the number of psychiatric beds is concerned. Because of the high economic growth achieved early on ahead of other Asian countries. Japan has been faced with issues relating to the universal health care system and an excess of psychiatric beds since the 1980s.

Japan's health policy has not received much international attention. Consequently, the large number of existing psychiatric beds has continued to be raised as an issue, despite the fact that Japan's mental health policy and services have changed considerably.2,3

In this chapter, current developments in mental health policies in Japan are reviewed for a better future.

Mental health needs

Health care for people with mental disorders

Figure 2.1 shows changes in the number of patients' visits over time according to the Patient Survey, which is conducted every three years by the Japan Ministry of Health, Labour and Welfare. The numbers of patients with cancer, acute myocardial infarction, stroke and diabetes have not changed so much, but that of mental disorders has increased since 2002, primarily due to the increase of outpatients with depression. About one million people are medically treated.

Patients with schizophrenia were used to being hospitalised, and those who admitted in 1950-70 are now long-stay elderly patients. In recent years, however, the proportion of young long-stay patients has decreased, and newly admitted patients are discharged sooner. A new facility other than a hospital is required for this patient group in the community where physical care is also available.

In Japan, patients with dementia have been treated in psychiatry. Although patients suffering from dementia are common in general hospitals and geriatric facilities in reality, the dementia unit can be established in only psychiatry under the health care system. As the society is rapidly ageing in Japan, it affects more and more people, and a national strategy is urgently needed.

Mental health in the general population

Japan has had one of the world's highest suicide rates for years, and it remains above 30,000 for the thirteenth straight year. The suicide rate rose from 18.8 suicides

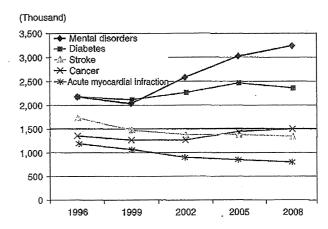


Figure 2.1 Number of patients.*

Note: * Patient Survey.

per 100,000 population in 1997 to 24.9 per 100,000 in 2010.4 A prolonged recession seems to affect this trend. The National Police Agency suggested common reasons including health concerns, unemployment and financial difficulties. As suicide is a major issue in Japan, the Basic Act on Suicide Prevention was enacted in 2006. Multidimensional countermeasures are being implemented through both the highrisk group approach and population approach, but unfortunately the suicide rate does not appear to be declining as expected. The Japanese Medical Association developed and distributed the Manual for Suicide Prevention for General Practitioners: Early Detection and Treatment of Depression to educate physicians via training programmes. A nationwide suicide prevention study has accumulated data since 2005. The results will be reported soon. Further effective plans based on those results are needed.

On 11 March 2011, Japan experienced a devastating earthquake, the biggest one since 869, in east Japan. The subsequent tsunami with more than 30-metre waves killed nearly 16,000 people. More than 3,000 are still missing. Also, the Fukushima Nuclear Plants were seriously damaged by the tsunami. The three tragedies (earthquake, tsunami and radioactive contamination) simultaneously affected the mental health of the earthquake and tsunami survivors. Long-term care should be prepared for the affected people, especially children.

Mental health services

Acute psychiatric inpatient care

Case A: a 35-year-old man with schizophrenia. Onset occurred at the age of 20 when he was in his third year of university and he was involuntarily admitted to a psychiatric emergency unit. After 40 days, he was discharged to outpatient care and returned to university. The patient obtained a bachelor's degree, and worked part-time after repeating a year. He then started work at a small factory owned by his father. At age 28, the patient relapsed because he did not comply with his medication regimes, and he was voluntarily admitted to an acute psychiatric care unit for 20 days. Since then, the patient has been able to control his condition, and he visits the outpatient clinic twice a month and continues to hold down a job while taking medication.

The increase in the number of psychiatric beds, which started in the 1950s, came to an end in the late 1980s, when the beds were divided into acute psychiatric units and long-term care units. Then, in 1996, with a focus clearly on health insurance reimbursement, acute psychiatric care units were established under a provision that limited hospital stays to approximately three months, generating one and a half times higher reimbursement than that of general inpatient psychiatric units. Furthermore, in 2002, psychiatric emergency units were established in community hospitals with approximately three times higher reimbursement than that of general inpatient psychiatric units. In Japan, there are approximately 100 hospitals with a psychiatric emergency unit and approximately 200 hospitals with an acute psychiatric unit. These two types of units are operated under a provision that limits the length of hospital stays and that more than 40 per cent of the patients be discharged into the community within a specified period.

Community care provided by psychiatric hospitals

Case B: a 58-year-old man with schizophrenia; he developed the condition when he was 18 years old. Highly resistant to being seen by a psychiatrist, he remained untreated. At age 25, he was, at the behest of his family, admitted to a psychiatric hospital built nearby. At the time, patients were often long-term inpatients. He was hospitalised for 15 years. When the hospital director was succeeded by his son, the treatment policies were changed, and the new hospital director recommended that he should be discharged. Several facts became apparent regarding this longterm inpatient. He had no friends and his parents were elderly so he could not live with them. He had resided at the hospital for many years and was anxious about leaving, so he was discharged to a group home near the hospital. Upon discharge, he initially had periodic outpatient visits and used day care services, but he gradually became accustomed to communal life with patients who had been similarly discharged. Until recently, he helped out at a bread factory started by the hospital while receiving job assistance. He is currently working with a meal service run by the hospital to provide meals to elderly nearby. He delivers meals to the homes of the elderly by bicycle. Elderly clients appreciate the service and he finds the work worthwhile.

· More than 80 per cent of Japan's psychiatric hospitals are privately run. Taking advantage of financial support for construction of psychiatric hospitals in the 1950s and 1960s, outpatient clinics built up psychiatric beds and subsequently became psychiatric hospitals. In the 1990s, these facilities were no longer able to increase the number of beds. In addition, revenue per day for treatment in a long-term care unit was equivalent to revenue per day for community care combining outpatient care and day care. To increase the number of admissions of new inpatients and utilise beds for acute inpatient care (which offered substantial medical fee reimbursements), hospitals began gradually discharging long-term inpatients. Discharged patients transfer to group homes built by psychiatric hospitals. However, patients who cannot be provided with a discharge destination, e.g. a group home, remain as long-term inpatients. Many of these individuals have already reached age 65, they have diminished activities of daily living (ADL), and they also have physical conditions as well. As things stand, these individuals still cannot be discharged.

Community care team

Case C: a 40-year-old male with schizophrenia has received nurse's home visits from a visiting nurse station for the past five years. The nurse visits him about twice a week. In addition to making sure that he takes his medication, the nurse advises